仲町病後児保育室　保健だより　１月

あけましておめでとうございます。新しい 1 年がスタートしました。今年も元気に過ごすために、食事、運動、睡眠のバランスを大切にしていきましょう。皆様が心身ともに健康に過ごせますように。

溶連菌感染症

溶連菌感染症とは、A 群溶血性レンサ球菌という細菌による感染症で、12 月から 3 月に多い傾向があります。

3歳頃から小学生くらいまでの子どもに多くみられ、一度感染して治っても、繰り返し感染することがあります。

感染経路としては、飛沫感染、接触感染、経口感染などがあります。

症状

２～５日の潜伏期間の後、喉の痛みや、扁桃腺が腫れる症状から始まり、38～39℃の高熱が出ます。３歳未満の子どもの場合、熱が上がらないこともあります。
舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が出たり、体や手足に発疹が出ることもあります。

溶連菌感染症と診断されたら、抗生物質を 10 日間服用します。
早い時期から服用する程、治療効果があると言われています。溶連菌はしつこく体の中に潜んでいるため、処方された薬は全て飲み切ることがとても大事です。

途中で服用を止めてしまうと、治りきらず再発したり、急性腎炎やリウマチ熱などの合併症を引き起こしてしまうこともあるので、注意しましょう。

安静にし、熱がある時は水分補給を十分に行いましょう。また、喉の痛みがあるため、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。

基本的には抗生物質を飲み始めてから 24 時間経過すれば感染力はなくなると言われており、熱が下がり他の症状もなければ登園が可能となります。